

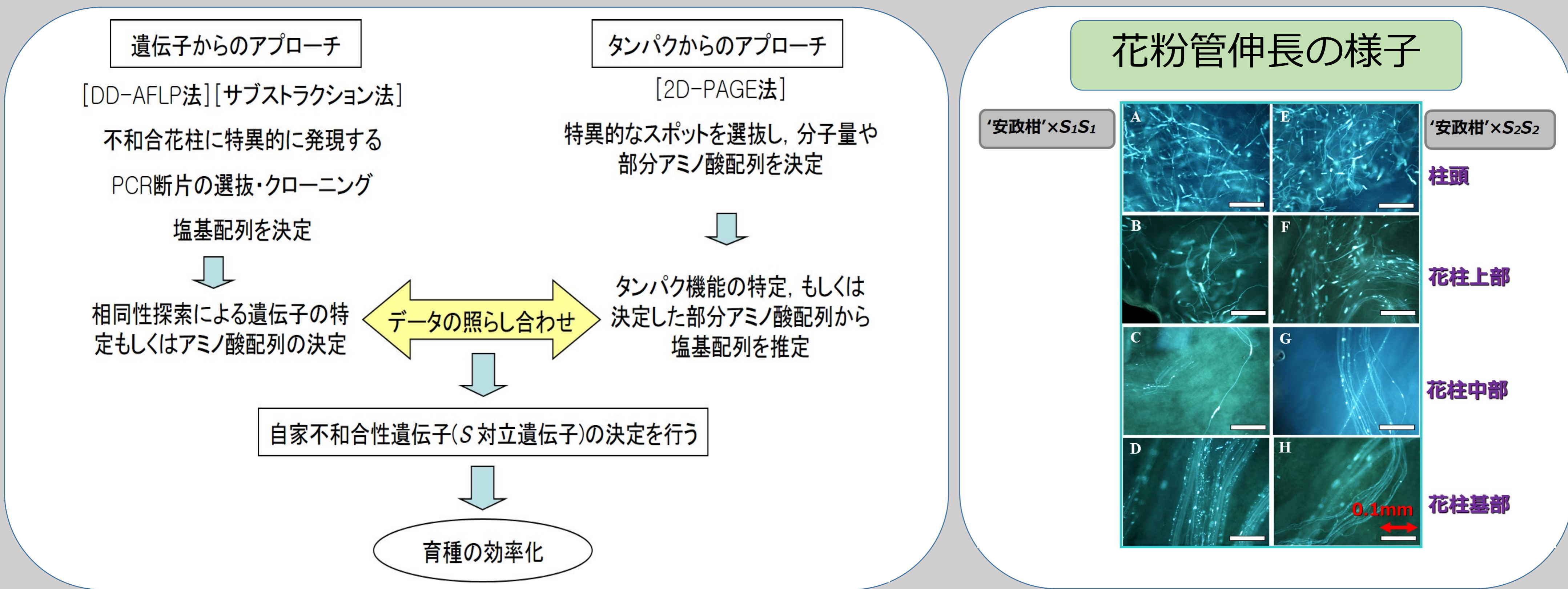


果樹園芸学研究分野では、未開発植物資源の探索・導入・評価や、有用形質を有する新規園芸作物の育種・栽培法の確立に関する研究を行います。例えば、単純な交雑育種に頼るだけでは新規作物の育成が困難な場合、交雑不和合の原因解明や、組織培養や分子マーカー選抜を援用した有効な育種技術の開発などが研究テーマとなります。また、商品価値のないものの、機能性成分を多く含まれている未熟果の有効活用法の探索等も同時に行っています。

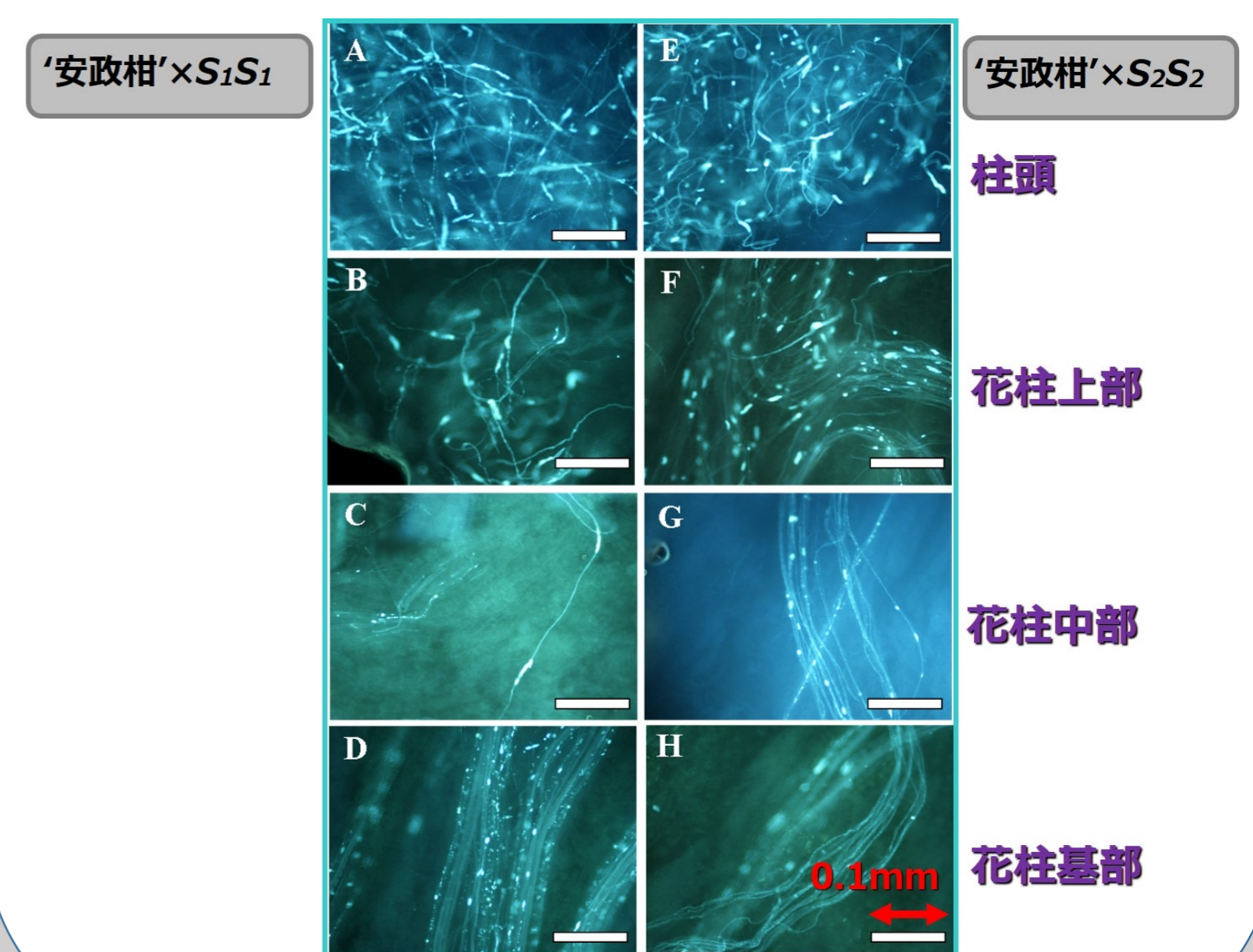
研究テーマ

1. 果樹における諸形質の遺伝と育種への利用
2. 果樹における機能性成分に関する研究
3. 無農薬の加工用ブドウの育種

カンキツの自家不和合性関連遺伝子およびタンパクの探索



花粉管伸長の様子



果樹における機能性成分に関する研究



- 未熟果で商品価値はないものの、機能性成分を多く含まれている未熟果の果皮の有効活用法を探索することを目的としている。
- この成果が活用できれば、自然災害により落ちてしまった未熟果の果実や摘果されて無駄になる果実を有効活用し、新たなカンキツ類の加工産業化に大きく貢献できると期待される。